

令和3年度 東海国立大学機構 図書館プロジェクトチーム活動報告書

| |
|--|
| プロジェクトチーム名 |
| 学術情報リテラシープロジェクトチーム |
| サブチーム |
| 1. 全学教育 2. 専門教育(地惑・法学・情報) 3. 研修 4. 機構連携 |
| メンバー |
| 堀友美(主査) 石川志愛里 泉花菜 一色南穂 伊藤舞 桶本裕太 我喜屋累 小屋敷瑛美 澤口由好 夏目弥生子 野見山敦史 橋本友貴 藤井洋子 布施典子 古沢慎也 松原隆実 安福奈美 |
| オブザーバー |
| 萩誠一(名古屋大学附属図書館情報サービス課長) |
| 令和3年度 of 主な取組みと目標 |
| 教員と連携した学術情報リテラシー教育の推進を行う ・初年次教育向け講習会の新カリキュラムへの対応 ・専門教育対応講習会(理学・法学・情報)の立上げ支援 ・学術情報リテラシー教育に関する研修の実施 ・機構としての大学間連携に関する検討 |
| 取り組みの概要 |
| <p>各課題に取り組むためにサブチームに分かれて活動を行った。全体ミーティングは5回開催し、サブチームの進捗状況の確認・意見交換のほか、各図書館・室における講習会等の事例報告や、文献紹介による知見共有も行った。</p> <p>各サブチームの取り組みの概要は以下のとおりである。</p> <p>1. 全学教育ST</p> <p>令和4年度開始の新カリキュラムでは、初年次必修科目「基礎セミナー」で「共通して修得させるべきアカデミックスキル(文献の調べ方を含む)」の共通モジュールを教養教育院が提供することになっている。文献の調べ方に関しては図書館が担当することとなり、教養教育院における検討に参画して、モジュールの内容や提供方法を提案するとともに、オンデマンド教材の作成と対面授業の企画・準備を行った。</p> <p>オンデマンド教材は、従来の「オーダーメイド講習会」のコンテンツをブラッシュアップし、演習と実演解説を加えたものを動画化して作成した。統一テーマの検討、演習問題と解説の考案、スライドとシナリオの作成、録音・動画化等の作業を順次、班に分かれて行った。</p> <p>対面授業については、オンデマンド教材の事前視聴による反転授業とするため、演</p> |

習のテーマ、内容、効果的な手法を検討し、授業計画を策定した。また、会場の環境確認を行い、講師担当者となるメンバーへの研修を3月22日に予定している。実施の際の人員については、教養教育院雇用のTA1名を確保したほか、各課に応援を要請する体制を業務会議に諮って構築した。

平成11年度から続いている、基礎セミナーのTAを介した図書館利用説明の仕組み(TAによる「資料探索指導法研修会」の受講と「図書館利用説明会」の実施)についてもこの機に見直すこととし、モジュール授業だけでは不足する実地での学習(書架で資料を探す方法や中央図書館の利用法を学ぶ)を盛り込んだ「ミッション・ラリー」を企画し、準備を行った。

2. 専門教育

・地惑ST

理学部地球惑星科学科2年生の必修授業「地質調査法」で、講習会「学术论文の探し方」を実施した。本講習会は、PTの前身である図書館情報リテラシーWGと理学図書館書の協働により令和2年度に新たに企画・実施されたもので、今年度は2回目の実施となった。

講習会の内容は、文献調査の目的と方法、調査の実際と戦略(日本語論文・英語論文の探し方)、地質分野の文献の探し方、文献の入手とツールを使った管理、剽窃とされないための正しい引用方法で構成した。昨年度は1コマでの実施であったが、今年度は2コマを用いたことにより、実習の時間を十分に取れ、受講生に実践的に取り組んでもらうことができた。アンケート結果からも、実習を通してより理解が深まった様子が読み取れる。

学科には今後も継続して実施することを依頼しており、3回目となる来年度は、理学図書館書の業務として実施する体制を整えることとなった。内容の改善や実習時のサポートなどについては、必要に応じてPTも協力することとした。

・法学ST

法学図書館ではこれまで、業者によるデータベース講習会や、一部の教員の依頼により、授業中に、基本的な資料の探し方(図書、新聞記事、論文の探し方)を説明する講習会や図書館ツアーを行ってきたが、より教員と連携した講習会の実施を目指して以下のとおり活動した。

事前準備として、(1)法学部の基本情報の確認、(2)法学分野の基礎知識の学習、(3)学生アルバイトや教員へのインタビューによるニーズの把握、(4)講習会構成案と仮コンテンツの作成を行った。インタビューでは、文献検索について知る機会の有無、普段よく使うツールやお勧めのデータベースについて確認することができた。講習会構成案は法情報の収集を中心とした内容で作成し、仮コンテンツは、NDLの研修資料や図書を参考に、法令の調べ方と判例の調べ方の2種を作成した。

講習会構成案と仮コンテンツを基に、法情報学の授業を担当する教員に講習会実施を打診した結果、令和4年度春学期に授業とタイアップした実施が可能となった。

授業で出される判例・法令に関する課題を、講習中に実際に調べるというスタイルで、実施自体は授業外(昼休みに複数回)であるものの、課題と連動しているという点で、学習効果の高い講習会になるものと考えられる。

・情報ST

情報学部・情報学研究科ではこれまで、学部や研究科のカリキュラムに即した専門教育に対応する講習会等を行って来っていない。まずは講習会の立上げの可能性を検討するため、以下のとおり活動した。

事前準備として、(1)情報学部・情報学研究科の基本情報の確認、(2)学生アルバイトや教員へのインタビューによるニーズの把握、(3)情報学でよく利用されるデータベース等の把握、(4)共通コンテンツをベースとした講習会構成案と仮コンテンツの作成、(5)教員への企画相談のための資料の作成を行った。

作成した資料をもとに、3月24日に情報学部の図書委員2名にインタビューを行い、情報学での講習会実施について方針を決定する予定である。

3. 研修

学術情報リテラシー教育の基本を体系的に学び、最新の動向を知る機会として令和元年度末にSDとして開催予定であったが、コロナ禍により延期となった研修を、今年度に改めて企画・実施した。

開催にあたっては、名大が主担当となり、岐大・三重大との共催とすることが業務会議に諮ったうえで決定された。オンラインによる開催とし、使用する会議システムをTeams、Zoomで比較検討した結果、Zoomに決定した。研修の主テーマを教員連携とし、三重大大学の長澤多代先生による講義、本PT主査の堀による実践報告、および自館における今後の取組みを考えるグループワークで構成することとした。

2/8に開催通知を発出し、2/21の締切後にグループ分けを行った。また、講師との打合せでは、Zoomの動作、全体の進行、グループワーク時のファシリテーターの役割などについて確認を行った。

3月8日の開催当日は、非常に密度の高い講義と実践のヒントとなる報告がなされたほか、途中組合せを変えてのグループワークとその後の発表では、短時間ながら活発な意見交換が行われた。研修終了後のアンケートからも、初めて学ぶ職員だけでなく、ある程度経験を積んだ者にとっても有意義な研修になったことが窺われる。

4. 機構連携

機構として大学間で連携するため、まずは両大学の実施状況等について情報を共有・整理し、方向性の検討を行った。また、可能な部分からリソースの共有を始めるため、今年度は名古屋大学中央図書館が企画・実施する下記の4種類のオンラインまたはハイブリッドの講習会について、岐阜大学の学生・教職員も参加できるように開放した。広報についてはそれぞれが自大学分を担当する形で行った。

・「Logical Thinking Skills for Academic Writing via ZOOM」(英語)

講師:名大教員

開催日:11月17日, 24日、12月1日(連続講座, 3回目は開催中止)

方法:Zoom, 予約制

参加数:48名(うち名大42名, 岐阜大 6名)

・「卒論講座 応援編」(日本語)

講師:中央図書館サポートデスク大学院生スタッフ

開催期間:10月11日-22日(計13コマ開催)

方法:Teams, 当日先着順

参加数:のべ65名※申込制ではないため, 名大と岐大の正確な内訳は不明

・「中国語で話そう」(中国語)

講師:中央図書館サポートデスク大学院生スタッフ

開催日:2月14日

方法:Zoom, 当日先着順

参加数:3名(うち名大2名, 岐阜大1名と推定)

・「Mendeley勉強会」(中国語)

講師:中央図書館サポートデスク大学院生スタッフ

開催日:2月22日

方法:対面+Zoomのハイブリッド

参加数:6名(すべて名大)

今後の展望

今年度の活動と成果を踏まえ、来年度は以下の活動を行う予定である。

- ・「基礎セミナー」の授業実施、新カリ対応の評価・改善
- ・法学の講習会実施と評価・改善、情報学の講習会立上げ支援
- ・研修等の実施、知見の共有、全学的な実施体制の検討
- ・機構としての大学間連携の可視化、講座開放、共同企画の検討など

なお、サブチームの編成とメンバーは、年度当初実施の講習会がひと段落する頃に見直しを予定している。